

平成 23 年度事業報告

(1) 事業の概要

① 法人経営について

■公益財団法人への移行完了

本年度の大きな課題として取り組みました、公益財団法人への移行については、予定通り平成 24 年 4 月 1 日付をもって移行を完了することができました。平成 24 年度からは新たに「公益財団法人」浜松市文化振興財団として、より一層の文化の振興と発展に資してまいります。

■新たな人事制度の導入

職員に対する新たな人事制度として、契約職員制度と人事評価制度を設けました。

契約職員は、これまで最長 4 回の更新(のべ 5 年間)を限度として雇用する制度となっている非常勤嘱託員の制度に加えて、評価が高い人材については更新に制限が無く継続雇用をすることができる制度として導入しました。あわせて人事評価制度を導入し、契約職員・嘱託員の雇用契約更新、正規職員の昇格、昇給等に反映します。平成 24 年度より 4 名の契約職員を雇用し、より効果的な事業活動を実施してまいります。

■浜松市行財政改革推進審議会答申への対応

第 3 次浜松市行財政改革推進審議会より指摘がありました施設管理部門の分離、事業評価制度の導入、市民に対する文化支援活動の充実、埋蔵文化財発掘調査事業からの撤退、の 4 点の答申事項について検討し、準備を整えました。いずれの答申事項についても平成 24 年 4 月より実施してまいります。

② 文化事業の実施について

■浜松市制 100 周年記念事業への協力

本年度は浜松市制 100 周年の節目となりました。当財団では仲道郁代、須川展也さんら浜松ゆかりの芸術家をお招きしたオリジナル企画による 100 周年記念公演事業「音楽の都・浜松の 100 年史 そして輝かしい未来へ」の制作、将棋名人戦の開催協力、100 周年記念冠事業の実施、100 夢プロジェクト選定委員会への参加等、様々なかたちで市制 100 周年を祝う活動に協力しました。

■市民とともに創る文化事業の実施

音楽、書道、美術、写真、食文化と様々な活動を行なっている市内文化団体の活動を融合させたイベント、「浜松夢限大」、これまで当財団の事業で連携してきた音楽家、文化団体、生涯学習音楽指導員が集結し、世代や音楽ジャンルを超えたステージとなった「和洋奏楽」、恒例となった「バンド維新」など、市民とともに企画し、制作する文化事業の開催に取り組みました。

■埋蔵文化財発掘調査事業の終了

平成 24 年 3 月をもって、埋蔵文化財発掘調査事業を終了しました。

③ 所管施設の運営及び附帯ソフト事業の展開について

■周年事業の開催

本年度は浜松市浜北文化センター開館 30 周年、浜松科学館開館 25 周年、浜松子ども館開館 10 周年の節目を迎える年となりました。各施設で特色ある事業が企画され、多くの来場者を集めました。

■新たな指定管理期間の開始

アクトシティ浜松、浜松市楽器博物館、浜松科学館、浜松文芸館、浜松市旧浜松銀行協会の 5 施設が新たな指定管理期間の初年度となりました。文化資源である施設や収蔵品を活用し、効果的な施設運営に努めました。

(2) 事業目的ごとの実施報告

① 芸術文化事業の企画、運営及び提供

本年度は、東日本大震災の影響により、松竹大歌舞伎、オペラ「運命の力」が中止となった他は、主催事業・共催事業をあわせて、多彩なジャンルの事業を計画どおり開催しました。

ショパンコンクール優勝者「ユリアンナ・アヴデーエワ ピアノ・リサイタル」や、ビッグバンドジャズ「デューク・エリントン・オーケストラ」、恒例となった若手演奏家を紹介する事業「アクト・ニューアーティスト・シリーズ」、そしてヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝者「辻井伸行ピアノ・リサイタル」など、良質なコンサートをお届けすることができました。

また、舞台芸術では、野村萬斎監修の浜松オリジナル企画「アクトシティ薪能」を開催しました。展示イベントホールがあたかも屋外のように感じる演出を施し、照明効果を利用した薪の揺らめきによって幽玄の世界を表現することができました。舞台と客席が同時に楽器を演奏する「ドラム・ストラック」や、名門「ポリショイ劇場」によるバレエ「白鳥の湖」公演など、多様な舞台芸術を提供することができました。

親子を対象にした事業としては、「NHK おかあさんといっしょ」を開催しました。チケットの売れ行き状況から、親子で鑑賞する事業に対する期待度を感じることができました。

② 芸術文化活動の支援及び交流の促進

今年 5 周年を迎えた「バンド維新」では、北爪道夫氏、池辺晋一郎氏など著名な作曲家による吹奏楽のための委嘱作品を、市内の中学・高校の吹奏楽部が「世界初演」し、作曲家との交流も深めました。

また、初めて小学生バンドとして、全日本小学校バンドフェスティバル 2 年連続金賞受賞の浜松市立瑞穂小学校金管バンド「ライブリーズ」が参加し、西村由紀江氏作曲の新作を演奏しました。また、昨年の三重県立文化会館の自主事業として取り上げられたのに引き続き、平成 24 年度は浜松市が音楽文化都市交流を行っている札幌市でもホールの自主事業として開催が予定されています。

新規事業としては、地域で活躍されている生涯学習音楽指導員と連携し、ジャンル・世代を超えて地元演奏団体が交流する事業「和洋奏楽」を開催しました。尺八の人間国宝をゲストに交え、邦楽と吹奏楽、雅楽とジャズなど日頃接することの少ない団体同士の交流を深めました。

継続事業では「浜松市民文化フェスティバル」や「はままつ演劇・人形劇フェスティバル」を開催し、地域の市民団体との連携・支援及び交流を行いました。あわせてボランティアスタッフを募集し様々な運営の補助をお願いするとともに、文化創造におけるボランティアの役割など育成も行いました。

③ 文化振興を担う人材の育成

ジュニアオーケストラ浜松・ジュニアクワイア浜松事業では、定期演奏会やスプリングコンサートなどホールで行う事業だけではなく、フラワーパーク、掛川花鳥園、浜松こども館など多くのイベントに参加し、特にジュニアクワイア浜松は名古屋市で開催された「名古屋少年少女合唱団クリスマスコンサート」にゲスト出演し、同世代同士の交流を深めました。

アクトシティ音楽院では、世界で活躍する音楽家の育成事業「アカデミーコース」から市民レベルの音楽文化の担い手を育てる「コミュニティコース」まで幅広い人材の育成を行いました。

2 月に開催された浜松国際ピアノアカデミーでは当時 12 才の少年がアカデミーコンクールで 1 位を受賞し、その後 CD デビューを果たすなど、マスメディアの注目を集めるものとなりました。

吹奏楽講座からはモデルバンドとして結成したバンドが、その後プロとして活動をスタートしました。主催者養成セミナー講座、吹奏楽リーダー養成講座、ジャズクリニックなども、全国大会で優秀な成績を収めるバンドや、市民によるコンサート企画の実現など、浜松における人材育成に大きく貢献しました。

④ 芸術文化に関する調査研究及び情報提供

アクトシティ浜松友の会「ビバーチェクラブ」では約 6,000 名の会員様に向けて、アクトシティ浜松をはじめ市内各所で行われる舞台公演の情報提供及びチケットの優先予約を行いました。チラシの郵送に加え、平成 23 年度からは浜松市の文化情報誌「HCF news」を年 4 回発刊・郵送し、文化事業が開催される背景や創造している人々を紹介し、幅広い情報を提供しました。また、ビバーチェクラブでは、インターネットによるチケット予約を開始し利用者の利便性を高めました。

HCF オンラインショップは、指定席座席のチケット購入を可能とするなどリニューアルを実施し、自主事業の運営はもとより、ホールを利用される主催者様・市民文化団体様の販売業務支援を行いました。

またインターネットでの情報提供については、浜松市と協働で開設した浜松市芸術文化情報ポータルサイト「はまかるドットネット」を引き続き運営するとともに、私たちの活動内容を広く周知するため Facebook などのソーシャルメディアによる情報提供を展開しました。

⑤ 地域社会の活性化に資する事業

例年 5 月の浜松まつりに合わせて開催している「アクトでやらまいか！ 浜松まつり」については、浜松まつりの中止に伴い実施できなかったものの、例年 8 月にサンクンプラザを中心に実施していた「アクト納涼まつり」を、今年度からは開催時期を変更し、ハロウィンをテーマにアクトプラザを主会場として 10 月に実施し、アクトシティでの賑わいや地域社会の活性化に努めました。

また、アクトシティ浜松管理課では、アクトシティの施設全体の有効活用による周辺地域の活性化を図るため、近隣の医療機関など各種団体をはじめ、関東エリアの学会事務局や企業などを訪問し、アクトシティ及び浜松市の PR 活動、コンベンション誘致活動を実施いたしました。その結果、平成 23 年度においては、税務署の確定申告会場として展示イベントホールの利用等の成果をあげることができました。

⑥ 浜松市の行う芸術文化事業の受託と協力

東日本大震災の影響により前中止となりました「第 16 回浜松吹奏楽大会」を 2 年ぶりに開催、被災地東北からの出場もあり、例年以上の盛り上がりを見せました。出場校によるプロムナードコンサートの開催や、地元小中学校でのコンサート開催などを行い、交流を深めました。また、アクトシティ浜松大ホールで行われた「第 24 回全日本高等学校選抜吹奏楽大会」は、日本トップクラスの高校生による演奏が繰り広げられ、満席の会場を沸かしました。

市制施行 100 周年記念式典では、第一部では浜松出身の演奏家による演奏やリードオルガンの演奏、第二部では宮川彬良氏の指揮による吹奏楽と合唱のコンサートを行い、来場のお客様に浜松ならではの式典をご覧いただくことが出来ました。

パイプオルガンミニコンサートを例年通り開催し、音楽に触れていただく機会を設けるとともに、音楽文化都市交流宣言による事業として「札幌交響楽団」を招き、演奏会を開催しました。

第 8 回浜松国際ピアノコンクールを翌年に控えた準備年として、コンテスト募集の記者発表や各種広報ソールの作成、運営の調整などを行い、浜松市シティプロモーション担当者との連携を密にしながら広報活動を続けました。また、海老彰子新審査委員長のピアノ・リサイタルを開催しました。

⑦ 公の施設の管理運営及び附帯事業

ア アクトシティ浜松

音楽、舞台芸術及び産業・コンベンション振興の拠点としてより活用していただくため、公益財団法人観光コンベンションビューローなどの関係諸団体と連携し、広報・誘致活動を行いました。5月中旬までは東日本大震災の影響による主催事業の中止や予約取り消しにより、稼働率および収入ともに伸び悩みましたが、広報・誘致活動により展示イベントホールにおいては稼働率の大幅な向上に成功し利用料金収入が当初予算を上回る結果となりました。今後も各施設の稼働率向上を図るとともに継続的な営業活動やリピーターの顧客満足度向上を目指し、利用料金収入及び稼働率の向上に努めてまいります。

設備管理面では、昨年度に引き続き省エネルギー対策を進め光熱水費の削減を図るとともに、老朽化や劣化した設備の修繕を積極的に実施しました。

イ 浜松市楽器博物館

本年度は、東日本大震災の影響から来館者数が危ぶまれましたが昨年度を上回る約 81,000 人の来館者がありました。

特別展では大阪音楽大学音楽博物館との共同企画で、音楽博物館所蔵の世界一のコレクションである「楽器を演奏する人形」1,600 体と楽器博物館所蔵の人形 300 体を展示し、好評を得ました。

「レクチャーコンサート」は全 18 回を実施、世界遺産であるインドネシア・ジャワ島の影絵芝居「ワヤン・クリ」やビルマの豎琴として日本人になじみの深いミャンマーの「サウンガウ」、中央アジア・キルギスの共和国の弦楽器「コムズ」、江戸時代から昭和初期まで人気のあった二弦のお琴の「東流二絃琴」ほか、世界の音楽文化を紹介しました。演奏者には浜松ゆかりの芸術家顕彰受賞者 2 名も含まれ、浜松の人的財産の活躍の場を設けました。夏に行った「バグパイプ博覧会」は、日本全国とドイツから出演者が集い、今や全国レベルの博物館である浜松市楽器博物館ならではの賑わいを見せました。

その他の事業として、天空ホールでの定期コンサートとして恒例となった「イブニングサロン」は 11 回開催、弦楽四重奏やチェロ、ヴァイオリンの無伴奏ソナタなど、アクトシティのホールでは取り上げることの少ない音楽を紹介し、好評を得ました。「ミュージアムサロン」では地元企業との共催によるコンサートや市民公募の演奏者のコンサートを開催し、広い支持層を得ました。講座・ワークショップでは世界の民族の歴史や地理も含めた音楽文化やジャズ文化のほか、精神医療関係などへの音楽の効用も紹介しました。

所蔵楽器のコレクションシリーズ CD は 6 種発売、雑誌や新聞の推薦をうけ、今やこの企画そのものが大きく評価されるようになりました。

ウ クリエイト浜松(浜松市中部公民館及び文化コミュニティセンター)

利用者の高齢化への対応として、様々な活動を展開しました。

既存サークル会員を講師とした囲碁講座やコーラス講座を開催により、今後の利用者となる会員を獲得し、また新規のコーラスサークルの立ち上げが実現しました。

また若者層へのクリエート浜松の認知度を上げるために、「栗コーダーカルテットコンサート」、アフリカの親指ピアノやオーストラリアの楽器ディジュリドゥのライブとワークショップ、地元のライブハウスで活躍するミュージシャンのライブ、ここ数年市内でもレッスンクラスが飛躍的に増えたベリーダンスの公演などを行いました。

その他、「夜のクリエート」特別編として、定期的にクリエートヘデッサンに通い、上達をめざす「スーパーデッサン」、「昼のクリエート」特別編として自然食と向き合い健康を考える「これからの食事」シリーズなど、音楽や美術といった芸術文化だけでなく、日常生活に近接した「文化の源」となるようなコンテンツを実施しました。

市民団体との共催企画「Collabo with!」では、全 10 回のカレー料理教室、ベリーダンスのライブ「浜松ベリー冬の陣 2012」、国際理解を広める「第 2 回はままつグローバルフェア」等、多方面な分野で開催し、様々な文化のプラットフォームを目指しました。

エ 浜松科学館

科学のおもしろさ、ものづくりの楽しさを伝える施設として、多彩な事業を実施しました。

常設展示では、小型展示案内端末「U4」システムを活用したクイズラリーを常設化、プラネタリウム事業では、大人向けの「飛び出せ！宇宙へ しょこたんの星空ツアー」と「平原綾香 いのちの星の詩」、子ども向けの「ポケットモンスター ベストウイッシュ」、どの番組とも好評で、職員制作による4つのオリジナル番組とあわせ、昨年度実績を上回る約 56,000 人の来場者がありました。また新規企画として「金曜日のナイト・プラネ」を実施し、仕事帰りの大人が鑑賞できる事業も展開し、利用の促進に努めました。

夏の特別展「スポーツわくわくサイエンスパーク」では、誰にでも受け容れられやすいスポーツの世界に焦点を当てた企画を実施しましたが、当初の目標に届かず、約 21,000 人の集客となりました。

アウトリーチ活動としては、開館 25 周年記念事業として、浜北文化センターと共同開催しました「米村でんじろうサイエンスショー」では、チケットが即日完売となり、多くの方にご来場いただきました。その他、浜松駅北口ラモで行われた「ものづくり浜松～タッチ&トライ～」にて野外サイエンスショーを実施しました。

オ 浜松こども館

本年度は、開館 10 周年という節目を迎え、これまでの 10 年間で振り返り、次の 10 年、20 年へつながるこども館の在り方、プログラムを考えながら事業を展開しました。

10 周年を記念した長期間に渡る事業では、「遊び てんこもり大作戦！」「ありがとうの木」「こども館アルバム」「袋いっぱい 遊びバクハツ！」「こども館 あそび横丁」を実施しました。改めて施設のコンセプト『遊び場』に立ち返り、遊びを通して多世代が気軽に交流することができる場所創りに努めました。開館記念日には感謝と浜松こども館の PR を兼ねて、ボランティアによる手作りマスコット人形を来館者にプレゼントしました。

運営面では、新たに広報担当者を設置し、メディアの取材、ウェブページによる広報活動を実施し、目標 21 万人には届かなかったものの、昨年度より約 1,000 人の来場者増となり、7 月には開館以来の入場者数 200 万人を達成しました。

ボランティアスタッフによる活動も充実し、活動時間や人員も前年比から増、中でも中高年ボランティアスタッフは 3 倍増となり、年間を通して多世代がふれあう場のすそ野の拡大や機会の増加につなげました。

カ 浜松文芸館

『より豊かな浜松市民の文芸文化を広げていく講座等事業』として、「文芸講座」、「(特別)企画・収蔵展」、「講演・朗読会」等 26 事業を開催しました。

入門講座では、複数の講座で終了後文芸館で活動する新たな同好会が立ち上がり、「市民文芸」の応募数も増加するなど、市民の創作活動をより活発化することができました。

特別企画展「浜名湖 湖北五山 ぶらり文学散歩」では、奥浜名湖にある国の指定重要文化財を有しているお寺「浜名湖湖北五山」が登場する文学作品や、各お寺にある文学的な所蔵品を実物や写真で紹介しました。また、附帯事業として実施した五山を巡るバスツアーは大変好評となり、募集定員を大幅に上回ったため、再度のバスツアーを計画・実施しました。

本企画展を通して、お寺を新たな視点で認識してもらう機会となるとともに、展示を見たのがきっかけで直接五山に赴いたり、逆に五山を回った人たちが本館を訪れたりする相乗効果が生まれ、「ひとつの浜松」の意識高揚の一助とすることができました。

キ 浜松市旧浜松銀行協会(木下恵介記念館を含む。)

浜松市指定有形文化財「旧浜松銀行協会」の歴史的価値を、設計者中村與資平の紹介と共に小学生の校外観察の機会や、浜松市民へ伝え広げて行きました。

「旧浜松銀行協会」内に施設される「木下恵介記念館」においては、木下恵介生誕 100 年の前年度にあたり、平成 24 年 3 月 20 日には生誕 100 年の記念事業の皮切りとして「あゝ人生に映画あり、歌があり」を開催し、好評を博しました。

その他の事業として、木下恵介作品上映会では、年間約 2000 人が来館、アートホールでは、浜松在住の音楽家とコラボし、施設の特徴を生かしたコンサートを開催。またアートギャラリーでは浜松市鴨江別館と連携し、「アメリカ映画ポスター展」を開催しました。

ク 浜松市天竜壬生ホール

本年度も北遠地域の文化振興と芸術普及を目指し多彩な主催事業を実施しました。

「天竜壬生ホール歌舞伎」は、壬生ホール開館以来初めて開催した歌舞伎の公演となり遠方からの来場者も多く、好評を博しました。

市民参加のイベントでは、地元の和太鼓団体と高校の郷土芸能部が出演した「遠州天竜太鼓夏の陣」、「未来の音楽家コンサート」を実施。「みぶ絵手紙展」にも 70 名を超える方に出展いただきました。

また壬生ホール開館と同時にスタートした児童文化体験講座「MIBU ワークショップ」の指導者をお務めいただいている芹澤文子さん・太田良子さんが浜松市教育文化奨励賞地域文化賞を受賞しました。

ケ 浜松市浜北文化センター及び浜松市森岡の家

浜松市浜北文化センターは、本年度は開館から 30 年を迎え、周年記念事業を中心に、事業を展開しました。

NHK との共催による「BS 日本のうた」の公開録画や、「浜北文化センターゆかりの若手演奏家たちと浜松交響楽団の華麗なる饗宴」と題した記念コンサート、2 回公演分が早々に完売した「米村でんじろうサイエンスショー」、「ありがとう」をテーマに一般公募した手紙を俳優の下條アトムさんが朗読した「ありがとうの手紙」を実施しました。

また一昨年、昨年に続き本年度も「ゆるやかコンサート」を季節に合わせて 4 回開催し、毎回定員を上回る申し込みがあり、大変好評を得ることができました。

施設全体の経年劣化が進み、修繕・更新がますます必要になっている実情を踏まえ、浜松市と協議しながら、適時修繕を行い、利用者の方々の快適な利用環境の確保に努めました。

浜松市森岡の家では、台風により、高木の枝が折れるなどの被害がありましたが、同心遠慮講の歴史など情報提供等を行うとともに、樹木の適切な育成、建物の適切な管理を行い、環境整備に努めました。

⑧ 埋蔵文化財の発掘及び調査

梶子遺跡第 13 次調査ほか 5 遺跡の発掘調査や整理作業、報告書の作成を行いました。

埋蔵文化財発掘調査事業については、平成 23 年度末をもって受託を終了しました。

(3) 会議に関する事項

ア 理事会決議事項

議決番号	開催年月日	件名
第10号	H23.6.20	平成22年度事業報告及び会計報告について
第11号	H23.6.20	公印規程の一部改正について
第12号	H23.10.4	寄附行為の変更について
第13号	H23.10.4	(公財)報酬等に関する規程の制定について
第14号	H23.12.21	職員給与規程の一部改正について
第15号	H23.12.21	職員等の育児休業等に関する規程の一部改正について
第1号	H24.3.21	組織規程の制定について
第2号	H24.3.21	経営会議の運営に関する規程の制定について
第3号	H24.3.21	公印規程の制定について
第4号	H24.3.21	文書取扱規程の制定について
第5号	H24.3.21	会計処理規程の制定について
第6号	H24.3.21	資産運用規程の制定について
第7号	H24.3.21	寄附金等取扱規程の制定について
第8号	H24.3.21	個人情報保護に関する規程の制定について
第9号	H24.3.21	所管施設利用料金規程の制定について
第10号	H24.3.21	職員就業規程の制定について
第11号	H24.3.21	職員給与規程の制定について
第12号	H24.3.21	職員退職手当支給規程の制定について
第13号	H24.3.21	職員旅費規程の制定について
第14号	H24.3.21	契約職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の制定について
第15号	H24.3.21	嘱託員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する規程の制定について
第16号	H24.3.21	職員等の育児休業等に関する規程の制定について
第17号	H24.3.21	職員等の介護休業等に関する規程の制定について
第18号	H24.3.21	諸規程を廃止する規程の制定について
第19号	H24.3.21	平成23年度補正予算について
第20号	H24.3.21	平成24年度事業計画について
第21号	H24.3.21	平成24年度予算について

イ 評議員会決議事項

議決番号	開催年月日	件名
第3号	H23.10.4	理事の選任について

(4) 役員等に関する事項

ア 理事・監事・評議員（平成 24 年 3 月 31 日現在）

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	伊藤 修二	評議員	石村 和清
副理事長	丹羽 稔夫	評議員	中山 正邦
常務理事	齋藤 慎五	評議員	田代 剛
理事	御室 健一郎	評議員	山崎 貴裕
理事	梅村 充	評議員	澤野 幸廣
理事	河合 弘隆	評議員	河嶋 英典
理事	山内 啓司	評議員	大石 好孝
理事	竹内 善一郎	評議員	武田 喜一郎
理事	星野 悦雄	評議員	鈴木 理久
理事	畑 すみ子	評議員	吉岡 克己
理事	杉田 豊	評議員	小島 逞壯
理事	高木 伸三	評議員	高松 良幸
理事	山崎 泰啓	評議員	西田 かほる
監事	大石 清美	評議員	石田 美枝子
監事	池浦 捷行		

イ 役員の変動

(ア) 就任

役職名	氏名	就任日	役職名	氏名	就任日
理事	丹羽 稔夫	H23.4.1	評議員	石村 和清	H23.4.1
理事	齋藤 慎五	H23.4.1	評議員	中山 正邦	H23.4.1
理事	御室 健一郎	H23.4.1	評議員	田代 剛	H23.4.1
理事	梅村 充	H23.4.1	評議員	山崎 貴裕	H23.4.1
理事	河合 弘隆	H23.4.1	評議員	澤野 幸廣	H23.4.1
理事	山内 啓司	H23.4.1	評議員	河嶋 英典	H23.4.1
理事	竹内 善一郎	H23.4.1	評議員	大石 好孝	H23.4.1
理事	星野 悦雄	H23.4.1	評議員	武田 喜一郎	H23.4.1
理事	畑 すみ子	H23.4.1	評議員	鈴木 理久	H23.4.1
理事	杉田 豊	H23.4.1	評議員	吉岡 克己	H23.4.1
理事	高木 伸三	H23.4.1	評議員	小島 逞壯	H23.4.1
理事	飯田 彰一	H23.4.1	評議員	高松 良幸	H23.4.1
監事	大石 清美	H23.4.1	評議員	西田 かほる	H23.4.1
監事	池浦 捷行	H23.4.1	評議員	石田 美枝子	H23.4.1
理事	山崎 泰啓	H23.10.4			

(イ) 辞任

役職名	氏名	辞任日	役職名	氏名	辞任日
理事	飯田 彰一	H23.10.4	評議員	石村 和清	H24.3.31
理事長	伊藤 修二	H24.3.31	評議員	中山 正邦	H24.3.31
副理事長	丹羽 稔夫	H24.3.31	評議員	田代 剛	H24.3.31
常務理事	齋藤 慎五	H24.3.31	評議員	山崎 貴裕	H24.3.31
理事	御室 健一郎	H24.3.31	評議員	澤野 幸廣	H24.3.31
理事	梅村 充	H24.3.31	評議員	河嶋 英典	H24.3.31
理事	河合 弘隆	H24.3.31	評議員	大石 好孝	H24.3.31
理事	山内 啓司	H24.3.31	評議員	武田 喜一郎	H24.3.31
理事	竹内 善一郎	H24.3.31	評議員	鈴木 理久	H24.3.31
理事	星野 悦雄	H24.3.31	評議員	吉岡 克己	H24.3.31
理事	畑 すみ子	H24.3.31	評議員	小畠 逞壯	H24.3.31
理事	杉田 豊	H24.3.31	評議員	高松 良幸	H24.3.31
理事	高木 伸三	H24.3.31	評議員	西田 かほる	H24.3.31
理事	山崎 泰啓	H24.3.31	評議員	石田 美枝子	H24.3.31
監事	大石 清美	H24.3.31			
監事	池浦 捷行	H24.3.31			

※平成 24 年 4 月 1 日の公益財団法人移行に伴い、全理事・監事・評議員が辞任

(5) 職員に関する事項

区分	人数 ()は兼務		備考
	H24.3.31 現在	H23.3.31 現在	
事務局長	1	1	
事務局次長	—	1	
総務課長	1	1	
係員	7	7	正規職員 4 嘱託員 3
事業課長	1	1	
係員	19	18	正規職員 10 嘱託員 9
販売促進課長	1	(1)	
係員	3	3	正規職員 1 嘱託員 2
アクトシティ浜松管理課長	1	1	
係員	13	12	正規職員 6 嘱託員 7
浜松市楽器博物館長	1	1	
係員	8	8	正規職員 2 嘱託員 6
クリエート浜松 館長	1	1	
係員	7	7	正規職員 2 嘱託員 5
浜松科学館 館長	1	1	
係員	21	21	正規職員 2 嘱託員 19
浜松こども館 館長	1	1	
係員	16	16	正規職員 4 嘱託員 12
浜松文芸館 館長	1	(1)	
係員	2	2	嘱託員 2
木下恵介記念館 館長	1	(1)	
係員	1	2	嘱託員 1
浜松市天竜壬生ホール 館長	(1)	(1)	事務局長兼務
係員	1	1	嘱託員 1
浜北文化センター・森岡の家 館長	1	1	
係員	3	3	正規職員 1 嘱託員 2
計	113	110	
会計責任者	(1)	(1)	事務局長
出納員	(12)	(12)	課長及びアクトシティを除く館長

※育児休業中の職員を含む。